

きほく人奮闘記



節安花とび踊り保存会 会長
にいや すすむ
新谷 修さん

戦国時代、難産で苦しんでいる高貴な身分の落人を救うため、長曾我部の武士と地区の農民らが舞い安産祈願をしたのが起源とされている「節安花とび踊り」。その後女性は女兒を出産しましたが、産後の病により母子ともに天へ。地元の人たちは手厚く弔い、祈願したお薬師様の並びに母子地蔵を作り、その霊を祭っています。「節安花とび踊り保存会」は、その頃から伝わる歴史ある踊りを後世に残すため、踊り継いでいます。

旧暦の1月16日に近い日曜日に、お

薬師様の境内で、安産・子宝・家内安全を祈願し、花とび踊りを奉納している当保存会。鉢巻、たすき、わらじを身にまとい、軽快な太鼓と鐘の音に合わせて、太刀を振りかざしながら踊るさまはとても力強く勇壮です。会員たちは「願掛けをされた方からおかげさまで安産だった、念願の子宝に恵まれたという声を聞くと、使命を果たせた安堵感と嬉しさが込み上げる」と笑顔で話していました。

昨年、長年使用してきた「わらじ」を会員である山崎武雄さん・新谷吉正さんご夫妻の4人が新調しました。「安産に恵まれますように」、「子宝に恵まれますように」、「家族皆が健康で幸せに暮らせますように」、そう思いを込めて一つひとつ丁寧に手作りされたわらじ。会員たちはそのわらじで力強く大地を踏みしめ、これからも踊り続けます。

今年は2月17日(日)に開催される節安花とび踊り。新谷修会長は「これから出産を控えている方、子どもを授かりたいと望んでいる方、ぜひお越しください。また、一緒に踊っていただく会員の方も募集しています。興味のある方はぜひお声掛けください」と笑みを浮かべ、その魅力と伝統の奥深さをPRしていました。



▲花とび踊りの様子

鬼王丸 ほのぼの日記

作 梶形 浩人
 絵 にのみや なつみ



人口と 12/31現在

世帯数

人口	10,357人
男性	4,829人
女性	5,528人
世帯数	5,049世帯

※外国人住民を含みます。

編集後記
 ▼毎年恒例の児童クラブの土鈴づくり。例年、子どもたちと一緒に作らせていただいています。私はいつも見本を参考に絵付けするのですが、子どもたちはオリジナリティあふれる土鈴を作っており、私は毎年それらを見るのが楽しみです。(悠)

お詫びと訂正

広報きほく1月号に誤りがありました。お詫びの上、訂正します。

P14「第9回でちこんか2018フォトコンテスト 3席受賞者」

(誤)青芝生之さん

(正)青芝生久さん